

地域が主体となったサルの被害防止対策 1

1 要旨

○下関市豊田町大字杣路子地区では、地元農業生産法人を中心とした営農活動が活発であるが、野生鳥獣による多大な被害が発生しており、見回りや防護柵の補修等に多大な労力が費やされ、営農意欲の低下が懸念されている。

○特に近年では、サルによる農作物被害が甚大で、住民への威嚇加害行動が多発するなど事態が深刻化する中、地域が主体となった大型囲いわなの設置等により、効率的な生産活動を促進し「自立できる経営体」の育成を図る。

2 地区の概要

地区名	下関市豊田町杣路子地区
戸数	28戸（うち農家22戸）
耕作面積	田29.5ha
主な作物	水稲、野菜、果樹
加害獣種	サル
対策実施年度	平成30年度



3 被害の状況と課題

- 本地区では防護柵を設置済みであるにも関わらず、サルによる水稲、麦、大豆等の食害が発生している。
- サルの出没に応じて、打上げ花火等による集落が連携した追い払い活動を行っているが、効果は限定的で根本的な対策が必要な状況にある。
- 放任果樹が集落内へサルを誘引している実情があり、地域ぐるみによる対策が必要な状況にある。

4 取組内容

(1) 推進体制の整備

- 被害防止活動に取り組むための推進体制の整備と役割の明確化
 - ・下関市：協議会の運営・地域アドバイザー
 - ・下関市鳥獣被害防止対策協議会：大型囲いわなの導入設置
 - ・下関農林事務所：鳥獣被害防止・駆除に関する助言
 - ・豊田猟友会：捕獲体制支援（銃器・わなによる駆除等）

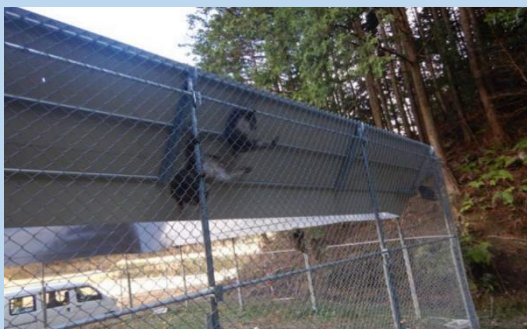
- ・ 槇泉集落：情報提供と遊休農地の保全管理
- ・ 下柵路子自治会：情報提供と被害対策への協力

(2) 活動方針の作成

- 市当局と地元自治会が連携し、「集落環境調査」を基に3か年の活動方針を作成した。

(3) 地域が主体となった具体的な取組

- 加害レベルの高いサルを群単位で捕獲のための大型囲いわなを設置する。
- 遊休農地発生防止のための保全管理による緩衝帯の設置
- 集落ぐるみによる放任果樹の除去、残渣農作物の処理、防護柵の補修
- 集落ぐるみによる捕獲隊員の育成・確保



大型囲いわなによる捕獲



囲いわなの適正管理

5 取組の成果

- サル用大型囲いわなの設置（H31年3月）により27頭を捕獲し、被害額が約2割減少した。

【被害額】

（千円）

区分	事業 実施前	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
		実績	増減	実績	増減	実績	増減
サル	1,180	1,062	▲118	950	▲230	900	▲280

6 地区代表者のコメント

- 囲いわなの設置が年度末となったため実績は少ないが、説明会を繰り返すことにより、集落ぐるみで行う鳥獣害対策の必要性が地元で認知された。

7 今後の取組

- これまでの取組の継続に加え、根本的な対策のなかったサル被害について、大型囲いわなの設置により今後の更なる被害軽減が期待できる。